

2019 年度 3 月 3 日

## 2018 年度共同研究報告書

### No. 675： 都市観光地における観光地マネジメントの課題解決と再構築 に向けた地域・観光動態研究

研究代表者：杉本興運（首都大学東京 都市環境学部）

本研究プロジェクトでは、東京都市圏にある都市観光地において現在の観光地マネジメントの課題解決や今後の再構築を進める上での戦略立案に必要な地域・観光動態に関する総合的研究を実施する。そのための重要な調査として、地理情報システムを応用した対象地の社会、経済、自然・都市環境および観光客の行動動態の時空間分析や地理的視覚化を実施する。事例として東京都の上野において各種の調査を行った。2018 年度は最終年度として、以下の 2 つの研究を実施した。

#### 1) 域内の観光行動と空間構造との関係に関する研究

上野では長年、公園エリアと下町エリアのアクセス性の低さが観光地としての課題となっている。台東区役所との連携により、上野を訪問した観光者の行動が空間構造にどのように影響されているのかを明らかにするための研究を行なった。まず、地形や建物などのマイクロジオデータによって対象地の空間構造を把握した。次に、GPS ロガーと質問票を組み合わせた観光行動調査を行い、空間消費や場所間の流動ネットワークの状況を分析し、空間構造との関係を考察した。これらの結果を基に、台東区役所の担当者と、今後の都市計画や観光マネジメントの意思決定への活用について意見交換を実施した。

#### 2) 観光地としての発達過程に関わる地域動態の研究

観光地としての発達過程を知ることは、将来的な観光地としてのビジョンを設定する上でも重要である。観光連盟、商店街組織、文化施設などとの連携により、上野の観光地としての発達や現在の観光地マネジメントの現状について、聞き取りや統計データによる調査を行なった。今年度までに実施した分と合わせて、結果をまとめ、地域誌編纂を行い、論文や書籍として刊行する予定である。